

「喧嘩大衆（双葉社）」  
2006年6月号

『史上最強！ 天下無敵の浪速のオバハン』  
バックナンバー

2006年6月号



内容は次ページより

# 史上最強！天下無敵の浪速のオバハン

オックス・ワイは関西の視調(のり)とKAZUKI(カズキ)やメヂタイ名前で。えっ、知らんのか？ 遅れどんのう。大阪生まれの大阪育ち。根っから大阪人や。今日はワイのオバンのまわりに居る奇天烈なジジババの話をしたるさきに聞きたい奴は今すぐ500円持といでや。えっ、セコイってか？ あほやな。何でも金にするのが大阪人特有のビジネス感覚や。それに聞いて損はあらへんで。自分がピンチになれば必ず相手や物のせいにする関西人特有の美談やさかい、おおいに笑ってや。ほんだらいこか。

## 第1話 暴走族より怖いチャリンコオバハン族

そのオバハンはおカンの友人で房子っちゅうねん。鳥子のオバハンはその日、自転車買物に出かけた。荷台にお決まりの掃除機や、キッチン子供を乗せて、6歳になる茂ボンっちゅう男の子や。オバハンと、べっ甲餅を詰めながら、ベロベロと手運転や。

「茂ボン、しっかり握ってときや」と、これまたお決まりの掛け声と共に、鳥子のオバハンが自転車をこぎだした。ところが四軒長屋の砂利道や、穴ボコだらけのアツアツウーン。想像どおり、すぐに茂ボンが落ちた。踏んで打って血が出ておる。しかし、ここが大阪のオバハンや。大声で泣いている茂ボンに「泣くな！ そんなもんはツバ塗っどけは出る。それより、スパーの安売りの賣出が先や」と、茂ボンを再び荷台に積み込むと猛スピードでスタートや。道路では一旦停止は勿論。信号もオクル無視や。大阪では暴走族よりチャリンコ(自転車)オバハン族が一番怖いんや。

さてさて、鳥子のオバハンはお目当てのスーパーに着くなり店員へお車を斜めに止めて、茂ボンを引き取り下ろすと店内に突入り。その時や、同じメヂタイの大阪のオバハン、電子が盗賊だんや。「ちょっとさ、さあ、おまん、血がでてまっせ。怪しやないんやでか？」大阪のオバハンには必ず二回、相手を叩かんな。それから子供には、いくつになつても、必ず「ちゃん」を付けるのが鉄則や。

「ああ、これでつかえらんあ、さっき近所の子供が石、投げまっせ。どどど。ほんとでもお強いおバハンや。貴めたつた可哀想や。それに茂ボンも耐えらん。」

そう言われて、うつもまよった。大阪のオバハンに、必ず「私は優しい」という演出をやらんや。せやけど、子供は別や。正直に、「ちゃんねん。」と、真実を語り出したんや。鳥子のオバハンは早速、茂ボンの手の甲をツツリあげたり、そして、そそくさと店内へ入り、溢れる人込みにまされ込まつた。店内では鳥子の声が聞こえらる。「滑り込みセーフや！」怖いのう！ 大阪のアバハンは、パーゲン命やのう。

子供の血、拭いたらんかい！

## 第3話 パチンコの当たりをノートに記すのが日課

そのオバハンはおカンの友人で房子っちゅうねん。房子のオバハンの日課は、パチンコ店の閉店間際に台のチェックをしに行く事や。別に仕事やあらへんで。単なる趣味や。店内に入ってセッセコ、セッセコと台のその日の当た回数やノートにつけておるんや。店員が、「オバちゃん。いつもいつも…、ええかげんにしてえや」と、注意しようもんなら…。「来店して台をチェックしたらアカンちゅう法律があるのんか？ それとあんなところは数えられたら困るんか？ そうかそうか…。他の店より当たりが少ないんやろ？ ええ、そうやろ！」

ちゅうて逆切れしよる。このオバハン、毎日毎日、当たりを調べても、寝過ぎてパチンコ屋に並びれへん。何の意味があんねん？

わがらのう！ 大阪のオバハン…、決められた日課をこなすだけか。

おまえ暇人(ひまじん)か！！

## 第2話 股間のタワシ丸出し夫婦喧嘩するオバハン

そのオバハンはおカンの友人で電子っちゅうねん。ワジ股未だ10歳の頃や。無毛なワイは、オカンの使ってた電子のオバハンの家に預かり物を取られたんや。そうしたら電子とダンナが喧嘩してんねん。

「あんな、頭の天辺は赤いんやから、心くさい温かくなつたらどうや」とちゅう大声が空気を震えさせておる。ワイは怒る怒る玄関のドアを開けたんや。その時や、ダンナが空服をぶっ飛ばされたや。ワイはその光景を呆然と見てたんや。しかし、オバハンはワイを無視し、しきりにダンナを蹴り上げとおる。そこでワイが一番驚いたんは、電子のオバハンがパンツを脱いだらんなか？ 股間のタワシ丸出しでオバハンが狂んでるんや。怖い！ 大阪のオバハンは…、パンツも脱いだんや。

お前は年中、すっぱん茶者か！！

怖いものなどない！ 無神経、ケチ、お喋り、汗かきなど。その実態が明らかに。

## 第6話 一口でたこ焼きを口いっぱいに入れるオバハン

そのオバハンはおカンの友人で房子っちゅうねん。その日、房子のオバハンとワイの家族は緑日へ行たんや。大体、関西人は緑日大好きや。境内でお参りしたら後は、お決まりの屋台コースや。ワイのオカンと房子のオバハンは、早速たこ焼きを買った。「イッパイ頬入れてや」と、なんん希望を声にして、たこ焼きを手に乗せそうや。ところがこの房子のオバハンは口が顔と比べバランスをほど、大きいんや。それに口紅がひどくまわり大きく塗ってある。まさに化粧や。おまけにこの房子のオバハン、食べながらよう喋りよる。たこ焼きも一口や。口いっぱいに入れるさかいに熱い言葉が言えず、「ファフ、ファフ」ひょっとここで言うとおる。何で二口三口と分けへんねん。ほんま…大阪のオバハンの口は怖いわ。

口紅塗るな。

## 第5話 歯に詰まったネギを爪楊枝でほじって飛ばす

そのオバハンはおカンの友人で房子っちゅうねん。房子のオバハンはお好み焼きが大好きや。大体、関西人は粉物をおかずにできる体質や。房子のオバハンも毎日お好み焼きを食つておる。ところがお好み焼きにはネギが入っているんやけれど、房子のオバハンは毎日、家に帰ったネギを爪楊枝でゴジゴジするのが癖なんやから、今ではネギが入っていないんやけど、おまけに房子のオバハンは、ホジったネギをプツとそこら辺に吐き捨てるんや。癖悪いわ。ほんま…大阪のオバハンはネギミサイルが好きやのう。

マスクしとけや。

あ、世で喋れ。

## 第4話 ファミレスのトイレトーパー代50円なり

そのオバハンはおカンの友人で房子っちゅうねん。房子のオバハンファミリーストランが大好きや。暇さえあればファミレスでお茶しどる。ところがこのオバハンファミレスで飲み食いするだけやたら問題は少ないんやけど、必ずトイレ行ってトイレトーパーを持って帰るんや。ワイ思いうんやけど、飲食代よりトーパー代金のほうが安いんやけど、ファミレス行かんど買物はもうがええんとちゃうか？

ところが話ばこれからや。ファミレスの店員も毎回毎回黙ってへん。パートにやばり地元のオバハンを入れたんや。それから、房子のオバハンがレジで勘定すると必ずトイレトーパー代金1個50円とレシートに打ち込まれとおる。どっちもどっちや。ほんま…大阪のオバハンはタダが大好きや。

金出して買えや。

## 第7話 用もないのに話し相手を求めて病院の待合室へ

そのオバハンはおカンの友人で房子っちゅうねん。米子のオバハンは、何かあったら直ぐに病院へ行つてくる。ちゅうと気が悪いと云うものな。ちゅうとちゅうと、あんな、あんな心配やねん。悪い事言わへんから唐くに病院へ行か、ええ先生知つておるんや。おまけにこのオバハン、自分と元々病弱の話し相手を探して市民病院の待合室へ向くんや。

あ、世で喋れ。

## 第9話 並んだレジで計算が合うまで離れない無神経さ

そのオバハンはおカンの友人で房子っちゅうねん。ワイが幼少の頃、オカンとスーパーに買物に行った時のこっちゃんや。なんやレジが混んでるんや。ようみると房子のオバハンがレジでレシートをジッと見つめて立ちんばしてらるや。「次の客が「はよ、どかんかい」ちゅう目で房子のオバハンを睨んでも知らんぶりや。そして精算の内容がおどたらニコッと笑ってレジを離れるんや。万一、精算が間違つたら大騒ぎや。近所に悪口を言ひふらしよる。ほんま…大阪のオバハンは無神経や。

レジの前で暗算するな。

## 第10話 試着でM寸のものをL寸にして店を後にする

そのオバハンはおカンの友人でヘタリっちゅうねん。ヘタリは小太りのオバハンなんやけど、自分が太っているちゅう事を認めたがらへん。せやから洋服屋へ行くと必ずM寸を頼まされる。店員が、「こちらの方がピッタリかと思いますが…」と、言おうものなら思いっきり尻みつけよる。そして試着室でM寸をL寸ぐらいにベロベロに伸ばしたあげく、しわくちやのまま家に帰して「また、今度来るわ」ちゅうて何も買わずに平然と帰る。ほんま…大阪のオバハンは怖いわ。

前世の因縁持ちめ。

## 第8話 汗かきオバハンがベトベトの首筋を触らせる

そのオバハンはおカンの友人で早苗っちゅうねん。この早苗のオバハンはちゅうと太りざみなんや。そやから夏場は座ったままま動きまらへん。おまけにそばに居る人間つかまえて、「ちゅうとちゅうと、ささっつて、汗でベトベトや。風呂にも入ってへんねん」ちゅうて手をつかんで自分の首筋を触らせよる。ワイもしちゅう触らされた。なんやニルニルして、おまけに臭いんや。それにいつも濡れたタオルで顔を拭いておる。ほんま…大阪のオバハンは汗かきや。

シャワーぐらい、入れよ。